

## 問題用紙

問 1 以下の実験に関する文章を読み、解説の図をよく見て以下の設問1) 2)に答えなさい。

As the result of recent progress in technology of communication robot, robots are becoming an important social partner for humans. Behavioral synchrony is understood as an important factor in establishing good human-robot relationships. In this study, we hypothesized that biasing a human's attitude toward a robot changes the degree of synchrony between human and robot. We first examined whether eyeblinks were synchronized between a human and an android in face-to-face interaction and found that human listeners' eyeblinks were entrained to android speakers' eyeblinks. . . . (中略) . . . .

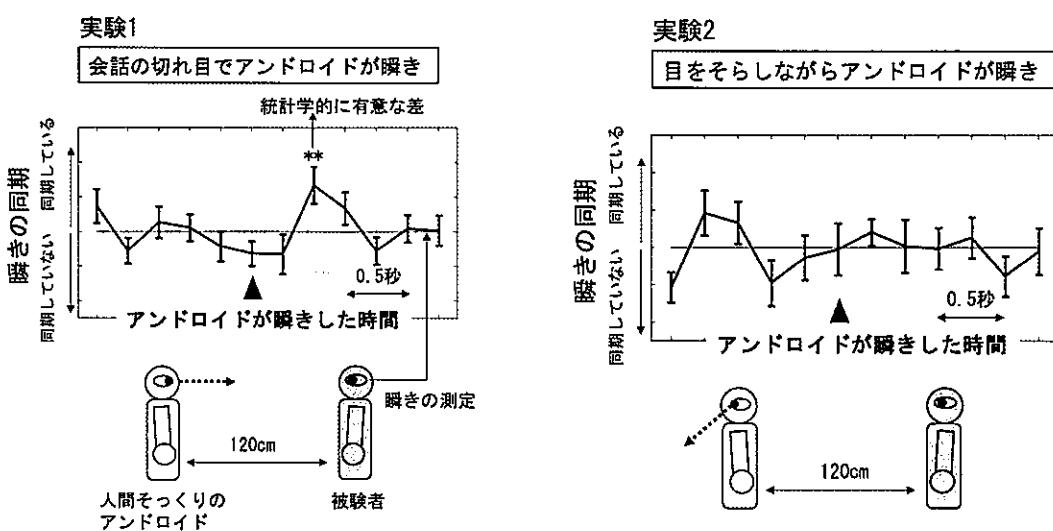
These results suggest that eyeblink synchrony reflects a qualitative state in human-robot interactions.

(Eyeblink Synchrony in Multimodal Human-Android Interaction. Tatsukawa K, et.al. *Scientific Reports.* (2016) より抜粋および改変)

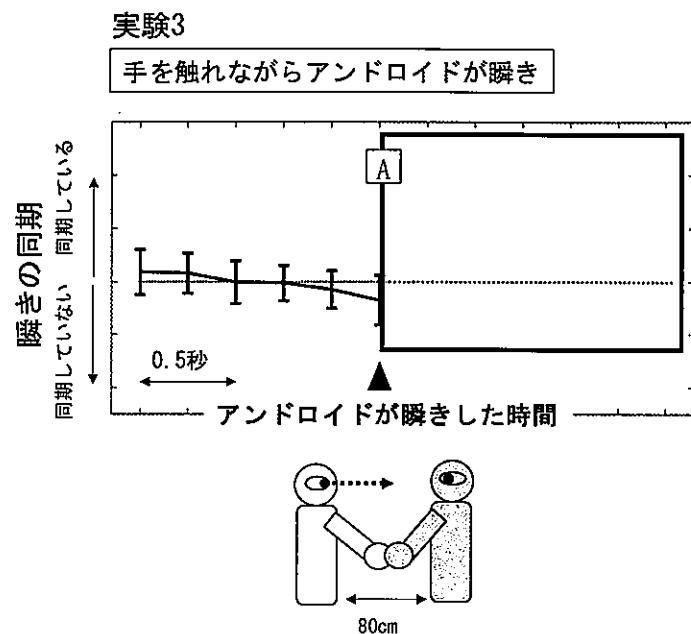
注釈) synchrony: 同期, entrain: 引き込む, looking away: 目を逸らす, qualitative state: 質的な状態

【実験の説明】 研究者は「アンドロイドが話をし、それを被験者が聞いている」という状況で、被験者の瞬きを測定した。また、以下のような条件でアンドロイドが瞬きをした時に被験者の瞬きがどのように変化するか、すなわちアンドロイドの瞬きにつられて(同期して)被験者が瞬きをするかどうかを調べた。

- ・実験1 アンドロイドは被験者と少し離れた(120cm)状態で目を合わせて話しかけた。その中で、  
話の切れ目に合わせて瞬きをした (▲)
  - ・実験2 アンドロイドは被験者と少し離れた(120cm)状態で目を逸らして話しかけた。その中で、  
話の切れ目に合わせて瞬きをした (▲)
  - ・実験3 アンドロイドは被験者と近距離(80cm)で手に触れながら話しかけた。その中で、話の切れ目に合わせて瞬きをした (▲)
- ・結果 被験者の瞬きの変化を下記の実験1以降の図に示す。



1) 実験3の[A]の箇所はどのようなグラフになるか、予想して答案用紙のグラフ空欄部分に書きなさい。なお、誤差範囲は書かずに折れ線のみでよい。なお統計学的に有意な差があると思われるポイントがあれば、そこに\*\*のマークを付けなさい。



2) この実験結果からどのようなことが言えるか、次の用語を含めて200字以内で述べなさい。  
(非言語的コミュニケーション、受容的態度、同期性)

なお、英文の要約などではなく、結果を具体的にまとめること。個人的な感想や意見は、一切必要としない。

## 問 2

以下の文章を読み、問題に答えなさい。

最近、「過重労働（過剰な時間外労働や休日労働）」が健康に及ぼす影響についてさまざまな知見が得られており、特に精神的に不調をきたす人が多いことから、「働き方改革」として、労働時間の制限が国により実施されています。また、「ワークライフバランス」つまり仕事とプライベートのバランスをとることも、健康な生活のためには重要と言われています。当然、働く人のみならず、受験生や大学生においても、学習とそれ以外の生活のバランスを取ることがとても重要です。

さて、以下に示すのは、本学1学年次前期における、ある週の時間割の例です。各科目について、授業のみならず予習、復習を行う必要がありますが、大多数の学生は、何らかのクラブ活動を行っています。

(授業は 70 分/ 時間)	月	火	水	木	金
1 時限	細胞生物学	解剖学	第二外国語	解剖学	医学英語
2 時限	細胞生物学	解剖学	医用心理学	解剖学	医療のための 情報学
昼休み (50 分)					
3 時限	生命倫理	医学英語	生体分子の 化学	解剖学	医用物理学
4 時限	自然科学 演習	医学のための 数学	アカデミックリ テラシー	解剖学	行動科学
5 時限	自然科学 演習	初年次医科学 セミナー	アカデミックリ テラシー	プロフェッショ ナリズム	スポーツ科学

以下の 2 人の受験生が本学の入学試験に合格して入学した場合、大学での学習や生活について問題となることと、そのために何に気をつけるべきか。

入学前の学習や生活を前述の「過重労働」「ワークライフバランス」の観点から評価しつつ、受験生 A・受験生 B について、それぞれ 300 字以内であなたの意見を述べなさい。

受験生 A： 現役で合格。高校の勉強もしっかりと行い、高校 3 年生の夏まで運動部で活動していた。部活を引退後は、1 日 4 時間程度勉強し、睡眠時間も 7 時間は確保していた。大学入学後は、自宅を出て一人暮らしをし、クラブ活動をせずに勉強する予定である。

受験生 B： 3 年間の浪人生活ののち合格。高校時代は、文化部の活動に没頭し、現役で合格することはできなかつたため、テレビを見ることもなく、スマホも解約し予備校に通つて、1 日 12 時間勉強していた。睡眠時間は 1 日 4~5 時間で、予備校でも友人を作らず、高校時代の友人と遊ぶこともなかつた。入学後も、下宿はせず自宅から 1 時間かけて通学する予定であるが、再び高校と同じ文化部で活動する予定である。